

令和3年度 学校評価 学校関係者評価書

学校名	三木市立別所小学校
-----	-----------

1 学校教育目標

人間性豊かで 主体的に生きる子の育成 — 確かな学力 豊かな心 健やかな体 —

2 本年度の重点目標

- (1) 学習内容や指導方法に工夫・改善があり、児童の能力・個性を伸ばすことができる明るく活気のある学校をつくる。
- (2) 教育環境の整備や道徳・人権教育の深化により安全で安心して学べる温かい学校をつくる。
- (3) 保護者・地域との連携により教育効果を高め、保護者・地域の願いに応える信頼される学校をつくる。

3 自己評価結果(達成状況)【A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない】

評価の観点	評価項目(取組内容)	取組(達成)の状況	評価	改善の方策
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力向上のための指導方法の工夫・改善 学習規律の確立と徹底 思考力・判断力・表現力を高めるための授業内容・方法・評価の工夫(ICTを活用した授業の推進と充実) 読書活動の推進と充実 	<ul style="list-style-type: none"> 「考えを伝え合い、学び合い、深め合う」という研究主題を設定し、単元の流れや身に付けたい力を明確にした単元づくりやワークシート、掲示物の形式の改善などについて検討し、児童が見通しを持ち、主体的に学習課題に向き合えるようにした。 児童が考えを持ちやすく、表現しやすく、深めやすくするための ICT を活用した授業づくりに努めることができた。 「学習7か条」や話し方・聞き方レベル表を活用することで、それらを意識して学習した児童が増えた。 学習、言語環境の充実をめざし、「まなび一階段」やたんぽぽホール「まなび一コーナー」に各学年の学習の流れや成果物を展示し、評価し合うことで、クラスや学年を越えた意見交流の場となった。 朝のチャレンジタイムを読書に限定し、また、給食前後にも読書タイムを設定し、読書活動の充実をめざした。また、継続して、読書通帳や各学年の「おすすめの本20選」の提示などを実施し、意欲的に読書できるような環境整備に努めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学習への意欲づけや児童の興味関心に応じた補充学習、多様な表現方法の獲得をめざし、タブレット端末の積極的な活用を促していく。また、基礎基本の定着にむけたタブレットドリル等の活用も工夫していく。 児童の ICT 端末の活用能力の向上のために、まずは教員のスキルアップを図り、工夫した授業づくりに努める。また、そのための講師派遣、講座なども積極的に取り入れていく。 学習の成果物を掲示する「まなび一コーナー」の取組を継続し、校内放送や、学年相互の評価活動を取り入れるなど、さらなる充実・活用の方策を検討する。 これまでの読書活動の取組を継続し、読んだ冊数を可視化したり通帳に保護者印の欄を設定したりして、児童の読書意欲の高揚や保護者への啓発を図り、読書力・語彙力の向上を目指す。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上 よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度の育成 いじめ・不登校・その他問題行動等の未然防止・早期発見・早期対応・早期解決 情報の共有化と多面的理解に基づく組織的指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 「別所小学校のよい子のくらし」を共通理解するために、細かなルールについても各種会議や職員会議で検討し、教師間の指導の統一を図った。 運動場や遊具で安全に事故がないよう遊ぶために、時間帯を学年で分けるなど、ルールを作った。 連休後や長期休業明けに「生活ふり返りカード」を実施した。今年度も、新型コロナウイルスの影響を考え、手洗いやマスクの着用についても確認し、心の状態についてもふり返るよう指導した。 毎月の各種会議で、児童の人間関係の把握および共通理解に努め、毎学期に実施している「学校生活アンケート」の内容や実施方法を見直し、いじめ・不登校・その他問題行動等の未然防止、早期発見・解決に努めた。情報機器の利用状況の実態も把握し、指導に活用した。特に、いじめの初期対応について何度も教師間で共通理解した。 不登校対策会議を開いて情報共有し、早期対応できるようにした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 家庭訪問や懇談会、メール配信や各種通信等を通して、保護者にも学校生活のルールの周知徹底を図り、基本的な生活習慣を確立させるための協力依頼を機会あるごとに継続して行う。 「生活ふり返りカード」の内容を再度検討し、より実態に即した効果的な内容や時期での実施を進め、保護者への啓発を図る。 家庭での過ごし方について、テレビやインターネットのルールが曖昧で、時間を決めずに使っている現状が見られた。時間の増加はそのままラブラに巻き込まれる可能性も増えていくため、情報モラルに関する学習を充実させ、保護者への啓発も行う。 一人一台のタブレット配布、スマホの所持率の高まりもあり、インターネット環境とのつながりが拡大しているため、さらに精選されたルールが必要である。そのため、ルールやネットモラルの指導を引き続き行う。
道徳・人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の時間における道徳実践力の育成と評価の工夫 家庭・地域と連携した人権教育の充実 特別活動を通じた道徳実践の向上 児童一人一人が大切にされる学級経営 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育では、検定教科書の教材研究を進め、道徳科の学習の充実を図ったり、年間指導計画をもとに本校独自のカリキュラムの確認を行った。 道徳科の授業内容や評価について、実際の評価活動に生かせるよう学年内で研修を行った。 親子人権学習(ワークシートでの交流)やともだち集会(リモート)などの行事を通じ、発達段階に応じた人権に対する意識・理解を全体で深めることができた。 児童一人一人が大切にされる学級経営のあり方、講師を招聘し、人権・同和教育の方向性を研修した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 道徳科の授業実践については、ICT 機器の活用や、他者・自己との対話を取り入れた学習方法などの研究・実践により、児童が主体的に取り組める授業を展開する。 道徳科の全体授業研修を行うとともに評価についての研修を深め、指導に生かせる評価とする。 人権教育についての研修を深め、児童の人権感覚の高揚を図るとともに、親子人権学習の学級懇談会やともだち集会などへ積極的に関わっていただけるよう表現の工夫を図り、保護者への啓発活動を継続。日程および内容の見直しや指導方法の工夫を図る。 学校行事や児童会活動、異年齢集団活動などにおいて、他者意識を持って活動し、自尊感情を高め、豊かな人間関係を築くことができるように指導する。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 校内支援委員会における校内支援体制・支援方法の充実 関係機関と連携した指導の充実 特別支援教育への理解、啓発の推進 幼・園・小・中連携教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 「個別の支援計画・指導計画」を作成し、個々の特色に配慮した支援・指導を模索すると共に、目標を明確にして指導にあたることができた。 必要に応じて、関係機関と連携したケース会議等を開催することで、支援体制・方法の充実を図った。また、定期的な個々の児童において共通理解を深める場を設け、指導の充実を図った。 校内研修の開催により、具体的な支援のあり方や専門的な指導のあり方等についての知見を深めた。 幼・園・中・特別支援学校との各種連絡会議等において、情報交換や必要に応じた観察を行い、入学後の支援に生かした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 校内支援委員会等で全教員の共通理解のもと、支援体制の拡充・充実を図る。また、保護者とともに「個別の支援計画・指導計画」を作成し、支援員とも情報交換を工夫しながら効果的な支援を行う。 関係機関と連携し、必要に応じてケース会議や児童観察を行うことで、支援の充実を図るとともに、各関係機関の役割等について共通理解を図る。 教職員研修を実施し、合理的配慮に対する理解を深めていく。また、児童においては、道徳科の授業や学校生活において、様々な配慮を要する児童に対しての理解教育を進めていく。 就学のための教育連携連絡会や小中一貫教育研修会を充実させ、幼稚園、認定こども園、特別支援学校、中学校との連絡・連携を密にし、円滑な接続を果たす。
安全・防災教育	<ul style="list-style-type: none"> 自ら身を守り、安全を確保する能力の育成 発達段階に応じた防災教育の推進 地域と連携した安全確保 発達段階に応じた体力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策を取りながら、火災・地震に備えた訓練を行い、緊急時の児童・教職員の判断力強化を目指した。また、休み時間など教師がいらない時間帯での訓練を設定することで、地震の際に自分たちで判断して動くということも経験できた。 不審者や工事等の情報や学校・地域などでの児童の安全に関する情報をもとに、全校生への一斉指導や学級指導による対応を行い、児童自身に危険意識の喚起を図った。 月毎の登校指導時、登校時の集合場所や通学路で集団登校の仕方について垣根塚の方と連携し、指導した。また、地区別下校で地区まで付き添い、必要に応じて下校指導を行った。 校内長距離記録会前の駆け足など、全校生で取り組む場を設け、体力の向上を図った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会や警察などの外部機関と連携して、児童とともに不審者対応についての知識や対応力のさらなる向上をめざし、今後も研修の場を設定したり、実践的な訓練を実施したりする。 各学年の発達段階に応じて視聴覚教材を用いた防災学習を継続して行い、児童の状況判断力の向上に努める。 月毎の登校指導や必要に応じた登下校指導を継続する。 駆け足や縄跳び、ボール運動などを継続して行い、さらなる体力の向上を目指す。
家庭地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 保護者・地域と連携した教育活動の推進 オープンスクール、通信、Web ページ等を活用した開かれた学校づくりの推進 保護者との教育相談の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 「0年生の家庭学習の手引き」として保護者に配布して、家庭での協力を依頼した。 地域ボランティアによる読み聞かせは、お勧めの本の紹介に変えるなど、児童と地域とのつながりを継続した。 新型コロナウイルス感染拡大防止のための措置により学校行事や各学年の親子行事、地域の行事も少なくなっているため、学級における児童や学校の様子をできるだけ通信や Web ページで紹介するようにした。 スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等と連携し、教育相談の充実を図った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「みきっ子家庭学習ガイド」に合わせて作成している「家庭学習の手引き」の内容を見直し、基礎・基本の定着や活用力の向上に向けた取組とともに、家庭訪問時配布する。 発達段階に応じた連携できる活動を保護者・地域とともに検討し、企画して取り組む。 Web ページにおいて、学年のページが少しでも充実できるよう工夫し、児童や学校の様子を発信していくとともに、オープンスクールの実施時期や時間、内容を検討し、児童の様子を直接見ていただく機会を確保し、より多くの保護者・地域の方に来校していただくよう広報を進める。 スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等と連携し、「相談しやすい」学校としての取組を継続して行う。
教職員の資質の向上	<ul style="list-style-type: none"> 人権意識の高揚と指導力の向上 校内研修の充実 校外における研修会等への積極的な参加 ICT 機器を活用した授業づくりへの意欲の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 身につけたい言葉の力を明確にし、児童が主体的に課題に向き合う姿をめざした授業づくり、道徳教育や人権教育、特別支援教育、いじめ防止などのいろいろな分野の研修を実施した。 コロナ禍ではあったが、講師派遣による研修(学級づくり)を実施することができた。また、グループ研修や学年研修も積極的に活用し、一人一公開授業を実施して教師の力量を高めることができた。 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、校外での研修会への参加は難しかったが、積極的に教員同士で学びを深め、ICT を活用した授業づくりを行い、指導力の向上に努めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 若手教員を中心に教職員の人権意識の高揚や指導力向上のため、教科に関する研修だけでなく、道徳や特別活動(学級活動・学級経営・児童理解等)に関する講話等の研修を引き続き行っていく。 新しい「教育課題や国・県・市の方針、教職員の実態などを踏まえて、プログラミング教育やタブレットの活用、「みきっすてっぶ」のドリルの活用法、人権教育、教科・実技指導など、実践につながる校内研修を行う。 教職員が積極的に研鑽を積むことができるよう、研修の機会の共有や校内行事の調整を行う。 引き続き、教員同士で積極的に ICT 活用について意欲を高め、指導力の向上を図っていく。

4 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価

- ・方法は適切であり、改善の方法が具体的に、次年度に生かせるものと期待できる。
- ・新型コロナウイルスの影響を受けて、何かと行動が制限されるなか、感染症対策を実施しながら、児童が安全に学校生活を送ることができるよう、指導方法の工夫がされていたように感じる。特に学習指導においては、新型コロナウイルスの感染が急拡大し、学校を休校せざるを得ない状況になった場合を想定し、児童が自宅でタブレット端末を活用して、リモートによる授業を受けることができるよう、実地テストを実施されている。また、学校を欠席している児童にも通常の授業の様子がわかるよう、web カメラを導入する等、児童一人一人に寄り添うとともに、非常に丁寧な指導を実施されているため、より高評価が妥当であるのではないかと。
- ・アンケート項目で、教職員のアンケートだけ内容がやや抽象的で、保護者・児童の項目と比較することができにくいのではないかと。アンケート内容の見直しが必要ではないかと。

5 評価の観点ごとの学校関係者評価

学校自己評価結果および改善の方策の適切さについての評価

- ・学習指導については、児童一人一人に寄り添うとともに、非常に丁寧な指導を実施されているため、B 評価ではなく、A 評価が妥当であると考えている。朝のチャレンジタイムの読書の時間を増やすなど工夫することで、わずかではあるが、読書習慣の改善が見られた。読書活動の継続も妥当である。
- ・生徒指導については、「生活ふり返りカード」を活用する等、児童だけでなく保護者とも協力し合いながら、児童の心身の成長につなげているため、A 評価が妥当である。基本的な生活習慣の定着に向けた取組と、ネットモラル、いじめ、不登校に対する取組が具体的で、評価できる。しかし、バーチャル空間での見えない隠れたいじめ等に対応していくためには、更なる情報モラル・セキュリティの指導を工夫して進めるなどして、精選されたルール作りが必要である。また、教師と児童の人間関係、児童間の人間関係を築くための学級経営や自主的・実践的な態度を育む取組を進めて欲しい。
- ・道徳の授業において、児童が学ぶだけでなく、保護者にも児童への大切な想いを改めて感じてもらえるような工夫が見られたため、A 評価が妥当である。改善の方策の更なる工夫と深化を期待したい。
- ・特別支援教育の向上に向けて、幼・園・小・中ともに連携した取組が見られたため、A 評価が妥当である。保護者アンケート項目中の「一人一人の教育的ニーズに応じた指導」に関して、支援の必要な児童への人的支援等が十分行われているかや、保護者の声が十分反映されているかの検証の継続が必要である。
- ・安全・防災教育については、火災や地震に備えて避難訓練を定期的に実施するとともに、登下校時においても現地での安全指導を徹底されているため、A 評価が妥当である。アンケート項目の「発達段階に応じた体力の育成」については、内容の検討をお願いしたい。
- ・家庭・地域との連携については、今後もスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等と連携しながら、更に丁寧な対応が必要であるため、B 評価が妥当である。ICT 活用とセットで必須である情報セキュリティ対応に向けて、教職員と共に保護者にもネットモラル等について学んでいただく必要を感じる。
- ・教職員の資質の向上については、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて、時間的な制約があるなか、教員同士で交流を図り、資質の向上が見受けられるため、A 評価が妥当である。A 評価やや疑問に思う。改善の方策の工夫を図り、更に前進する姿勢を打ち出して欲しい。ICT 活用をはじめ、一部の先進教員に頼ることなく教職員全体のレベルアップが図れるよう、組織運営をしていただきたい。